

後宇多院関係史料・研究文献目録稿（下）

坂口太郎編

例 言

- 本目録は、明治時代より2012年までに発表された後宇多院に関する公刊史料、研究文献を集成したものである。文献は内容別に分類し、各項目において発表の編年順に配列した。内容が多岐にわたる文献には、便宜的に分類したものもある。復刻・復刊・再収録などについては→記号で示した。
- 各項目の収載内容・基準は以下の通りである（A～Gは上、H～Nは下に収録）。
- A. 史料・著作には、後宇多に関する基本的な史料集、後宇多の著作の複製・影印・図録・解題、『後宇多天皇日記（後宇多院宸記）』『御手印遺告』に関する論著、『大覚寺聖教・文書』の目録・翻刻・調査報告などを挙げた。
- B. 伝記には、後宇多の伝記・年譜、各分野の辞典項目、諱に関する研究などを挙げた。ただし、辞典の項目については、原則として記名執筆のものに限った。
- C. 手跡には、後宇多の書風や消息に関する文献を挙げた。
- D. 政治には、鎌倉後期（特に後宇多即位以後）についての通史・総論を始め、同時期の治天の君・政治過程・公武関係、また公家訴訟制度・新制・徳政、貴族社会を論じた研究などを挙げた。原則として後宇多に関わる研究を収めたが、それ以外の重要な研究を含めた場合もある。ただし、下級官人や諸官司、六波羅探題などの研究については原則として除いた。
- E. 仏教・神道には、後宇多の仏教信仰全体の概説を始め、後宇多の密教興隆、弘法大師信仰、密教受法、即位灌頂、真言教学振興に関する研究、後宇多と真言諸寺院の関係に触れた研究などを挙げた。また、本覚大師号相論や、後宇多と天台、禪、律、神祇の関係について触れた研究も収めた。
- F. 和歌・文学には、鎌倉後期の歌壇史に関する包括的な研究を始め、

後宇多治世下における勅撰集編纂や、後宇多主催の歌会・百首歌に関する研究、二条派歌人の主要な伝記研究、私撰集の研究などを挙げた。また、後宇多の連歌、『増鏡』における後宇多の位置づけについて論じた研究も収めた。

- G. 学問・文庫には、後宇多の学問教養に触れた研究を始め、後宇多の漢学教養、大覚寺統の管領した文庫・宝蔵に関する研究を挙げた。
- H. 芸能には、後宇多の音楽・蹴鞠に関する研究、また絵画に関する関心について触れた研究を挙げた。
- I. 肖像には、後宇多の肖像に関する研究を挙げた。
- J. 住宅・都市には、後宇多の居住した里内裏・院御所やその空間構造、大覚寺統の拠点である権門都市嵯峨・亀山殿に関する研究を挙げた。ただし、発掘調査については除いた。
- K. 家族には、後宇多の父親である亀山天皇、母親の京極院、后妃の遊義門院・永嘉門院・万秋門院、皇子女の後二条天皇・後醍醐天皇・達智門院・崇明門院に関する研究などを挙げた。ただし、後醍醐天皇については主要なものに限り、建武政権に関する研究はほとんど除いた。また、後宇多の皇孫である邦良親王・邦省親王・聖尊法親王や、大覚寺統に属する恒明親王・守良親王に関する研究、大覚寺統における追善仏事・葬送を論じた研究も収めた。
- L. 知行国・荘園には、大覚寺統の知行国および大覚寺統による知行国主補任に関する研究、大覚寺統が所有した八条院領・室町院領・七条院領などの伝領研究、鎌倉後期の貴族社会と荘園制に関する研究、大覚寺統の個別荘園の沿革に関する研究などを挙げた。ただし、網野善彦ほか編『講座日本荘園史』第5巻～第10巻（吉川弘文館、1990年5月～2005年2月）に収められた各荘園の解説については除いた。また、個別荘園の研究については、荘園と大覚寺統の関係に言及したものに限った。
- M. 側近には、後宇多を支えた吉田定房・万里小路宣房・六条有房ら廷臣や女房、また後宇多に関係の深い禅助・道順・我宝・道我・栄海ら真言僧に関する研究を挙げた。
- N. 陵墓には、後宇多の陵墓に関する文献・調査報告などを挙げた。

H. 芸 能

I. 後宇多と音楽

豊永聡美「大覚寺統の天皇と音楽」（同氏『中世の天皇と音楽』吉川弘文館、2006年12月）

II. 後宇多と蹴鞠

小川剛生「二条良基と蹴鞠—『衣かづきの日記』を中心に—」（『室町時代研究』第1号、2002年12月）→「北朝蹴鞠御会について」（同氏『二条良基研究』笠間叢書362、笠間書院、2005年11月）

稲垣弘明「平安～南北朝期の蹴鞠—晴の蹴鞠会の系譜—」（同氏『中世蹴鞠史の研究—鞠会を中心に—』思文閣出版、2008年1月）

III. 後宇多の絵画に関する関心

荻野三七彦「似絵に関する新史料」（『画説』第41号、1940年5月）

I. 肖 像

田中喜作「図版解説 後宇多法皇像 京都大覚寺蔵」（『美術研究』第63号、1937年3月）

赤松俊秀「後宇多天皇御像 大覚寺蔵」（『宝雲』第35冊、1945年8月）

佐和隆研「大覚寺の密教と美術」（中村直勝監修、主婦の友社編『大覚寺』主婦の友社、1975年3月）

平林盛得「天子撰関御影と公家列影図—所収人名を中心として—」（宮次男編『新修 日本絵巻物全集』第26巻 天子撰関御影・公家列影図・中殿御会図・隨身庭騎絵巻、角川書店、1978年9月）

村井康彦「列影図巻とその時代」（宮次男編『新修 日本絵巻物全集』第26巻 天子撰関御影・公家列影図・中殿御会図・隨身庭騎絵巻、角川書店、1978年9月）

若杉準治「大覚寺の肖像画」（『古美術』第102号、1992年5月）

宮島新一「天皇と貴族の肖像画」（同氏『肖像画』日本歴史叢書50、吉

川弘文館、1994年11月）

近藤好和「装束からみた天皇の人生」（『国立歴史民俗博物館研究報告』
第141集、2008年3月）

日外アソシエーツ「後宇多天皇」（同編『歴史人物肖像索引』日外アソ
シエーツ・紀伊國屋書店、2010年2月）

J. 住 宅・都 市

I. 大覚寺統の里内裏・院御所

高橋俊乗「学問所形式の源流と展開」（同氏『近世学校教育の源流』永
澤金港堂、1943年4月→復刻版、臨川書店、1971年9月／日
本教育史基本文献・史料叢書、大空社、1992年2月）

是澤恭三「皇居「御湯殿上」の間の性格（一）（二）」（『日本学士院
紀要』第9巻第3号～第10巻第1号、1951年11月～1952年
3月）

川上 貢「両統迭立期（鎌倉後期）における内裏と院御所の研究序論」
（『日本建築学会論文集』第53号、1956年7月）→「鎌倉時
代後半期における内裏と院御所の研究 序論」（同氏『日本中
世住宅の研究』墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美
術出版、2002年5月）

藤岡通夫「鎌倉時代における内裏」（同氏『京都御所』彰国社、1956年
7月→新訂版、中央公論美術出版、1987年10月）

川上 貢「大炊御門万里小路殿の建築」「常磐井殿の建築」「二条高倉
殿の建築」「二条富小路内裏について」（同氏『日本中世住
宅の研究』墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美術出
版、2002年5月）

加能重文「『増鏡』の里内裏」（東京教育大学中世文学談話会編『峯村
文人先生退官記念論集 和歌と中世文学』東京教育大学中世文
学談話会、1977年3月）

橋本義彦「里内裏沿革考」（山中裕編『平安時代の歴史と文学』歴史編、
吉川弘文館、1981年11月→同氏『平安貴族』平凡社選書97、
平凡社、1986年8月）

- 川本重雄「弘御所について」（『日本建築学会論文報告集』第320号、1982年10月→同氏『寝殿造の空間と儀式』中央公論美術出版、2005年6月）
- 近藤成一「内裏と院御所」（五味文彦編『中世を考える 都市の中世』吉川弘文館、1992年11月）
- 秋山喜代子「「北面」と近臣」（『史学雑誌』第103編第12号、1994年12月→同氏『中世公家社会の空間と芸能』山川歴史モノグラフ3、山川出版社、2003年11月）
- 詫間直樹「後宇多天皇」（同氏編『皇居行幸年表』続群書類従完成会、1997年12月）
- 大村拓生「中世前期の首都と王権」（『日本史研究』第439号、1999年3月）
- 藤田勝也「弘御所の空間的性格」（『日本建築学会計画系論文集』第525号、1999年11月→同氏『日本古代中世住宅史論』中央公論美術出版、2002年12月）
- 飯淵康一「内裏様式里内裏住宅の空間的秩序」（同氏『平安時代貴族住宅の研究』中央公論美術出版、2004年2月）

II. 権門都市嵯峨・亀山殿

- 寺尾宏二「亀山殿の伝領と天竜寺造営について」（『歴史と地理』第34巻第1号、1934年7月）
- 寺尾宏二『後醍醐天皇と天龍寺』（後醍醐天皇多宝殿再建奉賛会、1934年10月）
- 森 蘊「鎌倉時代宮苑に関する研究」（『造園雑誌』第6巻第3号、1939年12月）
- 川上 貢「亀山殿の考察」（同氏『日本中世住宅の研究』墨水書房、1967年10月→新訂版、中央公論美術出版、2002年5月）
- 本中 真「亀山殿庭園における眺望行為」（『造園雑誌』第47巻第5号、1984年3月）
- 原田正俊「中世の嵯峨と天龍寺」（浄土真宗教学研究所・本願寺史料研究所編『講座蓮如』第4巻、平凡社、1997年7月）
- 高橋康夫「日本中世の「王都」」（『年報都市史研究』7 首都性、山川出版社、1999年10月）

- 大村拓生「中世嵯峨の都市的発展と大堰川交通」（『都市文化研究』第3号、2004年3月）→「嵯峨と大堰川交通」（同氏『中世京都首都論』吉川弘文館、2006年1月）
- 山田邦和「院政王権都市嵯峨の成立と展開」（吉井敏幸・百瀬正恒編『中世の都市と寺院』高志書院、2005年4月）→「中世都市嵯峨の変遷」（同氏『日本中世の首都と王権都市—京都・嵯峨・福原—』平安京・京都研究叢書2、文理閣、2012年3月）
- 山田邦和「中世都市嵯峨の変遷」（金田章裕編『平安京—京都—都市図と都市構造—』京都大学学術出版会、2007年2月→同氏『日本中世の首都と王権都市—京都・嵯峨・福原—』平安京・京都研究叢書2、文理閣、2012年3月）

K. 家 族

I. 後宇多の父母

（1）龜山天皇

- 南天仙史「龜山法皇の御事蹟に就て」（『禅宗』第108号、1904年3月）
- 衣笠宗元「龜山天皇御起願文略解」（『禅宗』第127号～第128号、1905年10月～11月）
- 八代国治「管崎宮の敵国降伏の宸翰に就て」（『書苑』第4巻第9号、1915年1月→同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月）
- 八代国治「蒙古襲来に就ての研究」（『史学雑誌』第29編第1号、1918年1月→同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月）
- 龍 肃「弘安の御願に就いて」（『史学雑誌』第29編第4号、1918年4月→同氏『鎌倉時代の研究』春秋社松柏館、1944年5月→同氏『鎌倉時代』下〔京都〕貴族政治の動向と公武の交渉、春秋社、1957年12月）
- 栢原昌三「弘安の御祈願と通海権僧正」（『歴史と地理』第2巻第2号、1918年8月）
- 平泉 澄「龜山上皇殉国の御祈願」（『史学雑誌』第31編第12号、1919年12月→同氏『我が歴史観』至文堂、1926年5月→復刻版、皇學館大学出版部、1983年4月）

- 鷲尾順敬「亀山法皇の御参禅」（『禅道』第25号、1923年8月→同氏『藍山全集』第1巻 日本禅宗史の研究、教典出版株式会社、1945年10月）
- 八代国治「弘安の御祈願に就て」（同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月）
- 小島鉦作「通海権僧正事蹟考」（『歴史地理』第52巻第1号～第3号、1928年7月～9月）→「大神宮法楽寺及び大神宮法楽舎の研究—権僧正通海の事蹟を通じての考察—」（『小島鉦作著作集』第2巻 伊勢神宮史の研究、吉川弘文館、1985年4月）
- 大屋徳城「亀山上皇と元寇」（『禅宗』第435号、1931年7月）
- 和田英松「亀山天皇」（同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月→復刻版、国書逸文研究会、1986年7月）
- 櫻井景雄「南禅寺の開創」（同氏『南禅寺史』上、大本山南禅寺、1940年4月→復刻版、法蔵館、1977年6月）
- 山田無文『亀山天皇御事蹟』（立命館出版部、1942年3月）
- 荻野三七彦「亀山上皇の四天王寺御幸（一）～（三）」（『四天王寺』第8巻第10号～第11号、第9巻第2号、1942年10月～1943年2月）
- 相田二郎「敵国降伏の祈願」（同氏『蒙古襲来の研究』吉川弘文館、1958年2月→増補版、1982年9月）
- 勝野隆信「亀山院御灌頂記」（続群書類従完成会編『群書解題』第17巻、続群書類従完成会、1962年7月→改訂版、『群書解題』第7巻、続群書類従完成会、1986年8月）
- 大坪利絹「『亀山院御集』の編集期と編者」（犬養孝博士古稀記念論集刊行委員会編『万葉・その後—犬養孝博士古稀記念論集—』塙書房、1980年5月）
- 本郷和人「亀山院と鷹司兼平」（『古文書研究』第32号、1990年4月）→「亀山院政—朝廷訴訟の確立—」（同氏『中世朝廷訴訟の研究』東京大学出版会、1995年4月）
- 小林 強「鎌倉中期主要散佚歌合・歌会等小考（（三） - I）—続拾遺和歌集撰進以後の歌壇について（資料篇）—」（『中世文芸論稿』第15号、1992年3月）
- 青柳隆志「天皇家と朗詠」（『研究と資料』第30輯、1993年12月→同

- 氏『日本朗詠史 研究篇』笠間書院、1999年2月)
- 青柳隆志「御製朗詠考」（『国語教育研究』第9号、1995年3月→馬淵和夫編『中世説話の〈意味〉』叢書日本語の文化史1、笠間書院、1998年2月→同氏『日本朗詠史 研究篇』笠間書院、1999年2月)
- 青柳隆志「亀山院在世の朗詠二題」（『梁塵一研究と資料一』第14号、1996年12月）→「天皇家と朗詠」（同氏『日本朗詠史 研究篇』笠間書院、1999年2月)
- 小川剛生「亀山院の住吉御幸」（『和歌文学大系』第9巻 続語拾遺和歌集、付録月報、1997年9月)
- 伴瀬明美「後院の御教書について」（近藤成一編『繪旨・院宣の網羅的収集による帰納的研究』1996年度～1998年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書(課題番号08451074)、1999年3月)
- 坂本麻美子「いっとき響く……」（『文学』第10巻第2号、1999年4月)
- 安田徳子「続拾遺和歌集成成立の周辺—亀山院と藤原為氏—」（後藤重郎先生算賀世話人会編『和歌史論叢—後藤重郎先生傘寿記念—』和泉書院、2000年2月)
- 原田正俊「中世仏教再編期としての一四世紀」（『日本史研究』第540号、2007年8月)
- 菊地大樹「虎関師練の歴史的 position」（『佛教史学研究』第51巻第2号、2009年3月)
- 中村本然「『常盤井殿記録』について」（『高野山大学論叢』第46巻、2011年2月)
- 多田實道「鎌倉時代の神宮と仏教」（伊勢市編『伊勢市史』第2巻 中世編、伊勢市、2011年3月)

（2）京極院

- 高橋悠介「文永二年の皇后宮御産御祈・如法愛染王法」（『随心院聖教と寺院ネットワーク』第2集、2005年3月)

II. 後宇多の後妃

（1）遊義門院

- 宮内三二郎「「とはずがたり」の作者と遊義門院—「とはずがたり」異説—」（『文学』第43巻第5号、1975年5月）→「とはずがたりの作者と遊義門院」（同氏『とはずがたり・徒然草・増鏡新見』明治書院、1977年8月）
- 宮内三二郎「続「とはずがたり」の作者と遊義門院—「とはずがたり」異説 その二—」（『鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第27巻、1976年3月）→「続とはずがたりの作者と遊義門院」（同氏『とはずがたり・徒然草・増鏡新見』明治書院、1977年8月）
- 横尾 豊「後宇多天皇」（同氏『鎌倉時代の後宮生活』柏書房、1976年8月）
- 橋本芳和「遊義門院始子内親王の一考察—東二条院所生の後深草法皇皇女と後宇多上皇の後宮—」（『政治経済史学』第283号、1989年11月）
- 伴瀬明美「二つの王家に愛された皇女—始子内親王—」（服藤早苗編著『歴史のなかの皇女たち』小学館、2002年12月）
- 山田彩起子「天皇准母内親王に関する一考察—その由来と下限を巡って—」（『日本史研究』第491号、2003年7月）→「天皇准母内親王に関する一考察」（同氏『中世前期女性院宮の研究』思文閣出版、2010年1月）
- 三好千春「遊義門院始子内親王の立后意義とその社会的役割」（『日本史研究』第541号、2007年9月）
- 樋口健太郎「長講堂領平津荘の相伝」（高砂市史編さん専門委員会編『高砂市史』第1巻 通史編 地理・考古・古代・中世、高砂市、2011年10月）

（2）永嘉門院

- 松木達雄「伊予河原庄と永嘉門院」（『伊予史談』第332号、2004年1月）

（3）万秋門院

- 山田彩起子「平安中期以降の尚侍をめぐる考察」（『古代文化』第64巻第2号、2012年9月）

Ⅲ. 後宇多の皇子女

（1）後二条天皇

- 和田英松「後二条天皇」（同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月→復刻版、国書逸文研究会、1986年7月）
- 風巻景次郎「家司兼好の社会圏—徒然草創作時の兼好を彫塑する試み—」（『国語国文研究』第5号～第6号、1952年3月～10月→日本文学研究資料刊行会編『日本文学研究資料叢書 方丈記・徒然草』有精堂出版、1971年7月／『風巻景次郎著作集』第8巻 中世圏の人間、桜楓社、1971年1月）
- 林 瑞栄「卜部兼好書状の考察—兼好と後二条帝—」（『文化』第29巻第2号、1965年8月→日本文学研究資料刊行会編『日本文学研究資料叢書 方丈記・徒然草』有精堂出版、1971年7月）→「卜部兼好書状—兼好と後二条帝—」（同氏『兼好発掘』筑摩書房、1983年2月）
- 有吉保・田村柳壺「『後二条院百首』（仮称）—翻刻と紹介—」（『語文』第52輯、1981年6月）
- 山崎桂子「『後二条院百首』考—九州大学図書館蔵本の紹介を兼ねて—」（『国文学攷』第96号、1982年12月）
- 田中貴子「『溪嵐拾葉集』における王権と神祇—神璽の箱をめぐる—説話から—」（今谷明編『王権と神祇』思文閣出版、2002年6月→同氏『『溪嵐拾葉集』の世界』名古屋大学出版会、2003年11月）
- 林 均「伝後二条天皇筆「釈教詩」考察」（『〔近畿大学文芸学部論集〕文学・芸術・文化』第14巻第2号、2003年3月）
- 藤原重雄「東寺蔵「嵯峨天皇像」と史料編纂所蔵正親町本「後二条院御影粉本」」（『東京大学史料編纂所附属 画像史料解析センター通信』第21号、2003年4月）
- 石澤一志「『後二条天皇御集』書誌 小考」（武井和人編『中世後期禁裏本の復元的研究』平成18年度～平成20年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書（課題番号18320039）、2009年3月）

(2) 後醍醐天皇

- 黒板勝美『後醍醐天皇御事蹟』（吉野神宮奉賛会、1932年12月→同氏『虚心文集』第2巻、吉川弘文館、1939年11月）
- 和田英松「後醍醐天皇」（同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月→復刻版、国書逸文研究会、1986年7月）
- 平泉 澄『建武中興の本義』（至文堂、1934年9月）
- 松本周二「後醍醐天皇御踐祚前の御事蹟」（建武義会編『後醍醐天皇奉賛論文集』至文堂、1939年9月）
- 村田正志「後醍醐天皇御事歴」（『國學院雑誌』第45巻第9号、1939年9月→同氏『南北朝史論』中央公論社、1949年10月→『村田正志著作集』第1巻 南北朝史論、思文閣出版、1983年3月）
- 赤松俊秀「南北朝内乱と未来記について」（『仏教史学』第5巻第1号、1956年1月）→「南北朝内乱と未来記について—四天王寺御手印縁起・慈鎮和尚夢想記—」（同氏『鎌倉仏教の研究』平楽寺書店、1957年8月）
- 久保田収『日本人のための国史叢書』9 建武中興（日本教文社、1965年9月）→同氏『建武中興—後醍醐天皇の理想と忠臣たちの活躍—』（明成社、2004年9月）
- 佐藤進一『日本の歴史』第9巻 南北朝の動乱（中央公論社、1965年10月→中公文庫 S—2—9、1974年2月→中央公論新社新装改版、中公文庫、2005年1月）
- 赤松俊秀・黒田俊雄・佐藤進一・永原慶二・（司会）豊田武「座談会「日本の歴史」（十三）"南北朝時代"について」（『日本歴史』第237号、1968年3月）
- 黒田俊雄「建武政権の所領安堵政策について—一同の法および徳政令の解釈を中心に—」（赤松俊秀教授退官記念事業会編『国史論集』赤松俊秀教授退官記念事業会、1972年12月）→「建武政権の所領安堵政策—一同の法および徳政令の解釈を中心に—」（同氏『日本中世の国家と宗教』岩波書店、1975年7月→『黒田俊雄著作集』第7巻 変革期の思想と文化、法藏館、1995年10月）
- 水戸部正男『後醍醐天皇』（秋田書店、1974年12月）

- 黒田俊雄「建武政権の宗教政策—諸国一宮・二宮本所停廢に関連して—」
（時野谷勝教授退官記念事業会編『日本史論集』清文堂出版、
1975年5月→同氏『日本中世の社会と宗教』岩波書店、1990
年10月→『黒田俊雄著作集』第7巻 変革期の思想と文化、
法藏館、1995年10月）
- 網野善彦「元亨の神人公事停止令について—後醍醐親政初期の政策をめぐって—」（『年報中世史研究』第2号、1977年5月→日本
古文書学会編『日本古文書学論集』第6巻 中世Ⅱ 鎌倉時代の
法制関係文書、吉川弘文館、1987年6月／同氏『悪党と海
賊—日本中世の政治と社会—』叢書・歴史学研究、法政大学
出版局、1995年5月→『網野善彦著作集』第13巻 中世都市
論、岩波書店、2007年5月）
- 網野善彦「造酒司酒麴役の成立—室町幕府酒屋役の前提—」（竹内理三
博士古稀記念会編『続 荘園制と武家社会』吉川弘文館、1978
年1月→同氏『悪党と海賊—日本中世の政治と社会—』叢書
・歴史学研究、法政大学出版局、1995年5月→『網野善彦著
作集』第13巻 中世都市論、岩波書店、2007年5月）
- 村松 剛『帝王後醍醐—「中世」の光と影—』（中央公論社、1978年6
月→中公文庫む—10—1、1981年5月）
- 森 茂暁「建武政権の法制—内閣文庫本「建武記」を素材として—」（『史
淵』第116号、1979年3月→同氏『南北朝期公武関係史の研
究』文献出版、1984年6月→増補改訂版、思文閣出版、2008
年7月）
- 森 茂暁「後醍醐天皇前期親政期の記録所」（『九州史学』第66号、1979
年6月→同氏『南北朝期公武関係史の研究』文献出版、1984
年6月→増補改訂版、思文閣出版、2008年7月）
- 森 茂暁「建武政権の構成と機能（2）—記録所・恩賞方・窪所・武者
所・検非違使庁—」（『九州史学』第67号、1979年10月）
→「建武政権の構成と機能—その他の官衙—」（同氏『南北
朝期公武関係史の研究』文献出版、1984年6月→増補改訂版、
思文閣出版、2008年7月）
- 森 茂暁「建武政権の構成と機能（1）—雑訴決断所—」（『三浦古文
化』第26号、1979年11月）→「建武政権の構成と機能—雑

- 訴決断所一」（同氏『南北朝期公武関係史の研究』文献出版、1984年6月→増補改訂版、思文閣出版、2008年7月）
- 森 茂暁『建武政権—後醍醐天皇の時代—』（教育社歴史新書〈日本史〉60、教育社、1980年11月→講談社学術文庫2115、講談社、2012年6月）
- 平田俊春「後醍醐天皇討幕の御志の由来—亀山法皇および後宇多法皇との関係について—」（『神道史研究』第32巻第4号、1984年10月→同氏『南朝史論考』国学研究叢書第18編、錦正社、1994年3月）
- 村井章介「建武・室町政権と東アジア」（歴史学研究会・日本史研究会編『講座 日本歴史』第4巻 中世2、東京大学出版会、1985年2月→同氏『アジアのなかの中世日本』歴史科学叢書、校倉書房、1988年11月）
- 百瀬今朝雄「元徳元年の「中宮御懐妊」」（『金沢文庫研究』第274号、1985年3月→佐藤和彦・小林一岳編『展望日本歴史』第10巻 南北朝内乱、東京堂出版、2000年2月／同氏『弘安書札礼の研究—中世公家社会における家格の桎梏—』東京大学出版会、2000年5月）
- 網野善彦「異形の王権—後醍醐・文観・兼光—」（同氏『異形の王権』イメージ・リーディング叢書、平凡社、1986年8月→平凡社ライブラリー10、平凡社、1993年6月→『網野善彦著作集』第6巻 転換期としての鎌倉末・南北朝期、岩波書店、2007年11月）
- 新城常三「後醍醐天皇と関所」（『日本歴史』第476号、1988年1月→同氏『中世水運史の研究』塙書房、1994年10月）
- 黒田日出男「肖像画としての後醍醐天皇」（『別冊文藝・天皇制【歴史・王権・大嘗祭】』河出書房新社、1990年11月→同氏『王の身体 王の肖像』イメージ・リーディング叢書、平凡社、1993年3月→ちくま学芸文庫、筑摩書房、2009年2月）
- 吉井功兒『建武政権期の国司と守護』（近代文藝社、1993年8月）
- 佐藤進一・網野善彦・笠松宏至『日本中世史を見直す』（悠思社、1994年2月→平凡社ライブラリー278、平凡社、1999年2月）
- 市沢 哲「南北朝内乱期における天皇と諸勢力」（『歴史学研究』第688

号、1996年9月→同氏『日本中世公家政治史の研究』歴史科学叢書、校倉書房、2011年9月)

Goble, Andrew Edmund. *Kenmu: Go-Daigo's Revolution*. Cambridge, Harvard University Press, 1996.

森 茂暁『後醍醐天皇—南北朝動乱を彩った霸王—』（中公新書 1521、中央公論新社、2000年2月）

吉井功兒「建武政権期前後の知行国主と国司」「建武政権期&南北朝期宮方の国務管掌者・国司・守護・特別職の移動表」（同氏『中世政治史残篇』トーキ、2000年10月）

本郷和人「後醍醐天皇親政への一考察」（『鎌倉遺文研究』第8号、2001年10月）

佐藤厚子『中世の国家儀式—『建武年中行事』の世界—』（中世史研究叢書4、岩田書院、2003年10月）

森 茂暁『南朝全史—大覚寺統から後南朝へ—』（講談社選書メチエ 334、講談社、2005年6月）

豊永聡美「後醍醐天皇と音楽」（同氏『中世の天皇と音楽』吉川弘文館、2006年12月）

河内祥輔「後醍醐天皇の倒幕運動について」（同氏『日本中世の朝廷・幕府体制』吉川弘文館、2007年6月）

坂口太郎「後醍醐天皇の寺社重宝蒐集について」（上横手雅敬編『鎌倉時代の権力と制度』思文閣出版、2008年9月）

坂口太郎「建武新政・南朝と院政—後院の設置を中心として—」（『〔京都大学大学院人間・環境学研究科紀要〕人間・環境学』第17巻、2008年12月）

渡邊 歩「後醍醐親政初期の洛中酒鑪役賦課令をめぐって」（『アジア文化史研究』第9号、2009年3月）

内田啓一『後醍醐天皇と密教』（シリーズ権力者と仏教2、法蔵館、2010年7月）

渡邊 歩「後醍醐親政初期の神人公事停止令再考」（『アジア文化史研究』第11号、2011年3月）

市沢 哲「建武新政の歴史的 성격」（同氏『日本中世公家政治史の研究』歴史科学叢書、校倉書房、2011年9月）

(3) 達智門院

所 京子「伊勢齋宮関係国歌集成—鎌倉時代を中心にして—」（『聖徳学園女子短期大学紀要』第11集、1985年3月）→「齋王関係の国歌集成 I 伊勢齋宮関係国歌」「齋王関係の国歌考証 I 伊勢齋宮関係国歌」（同氏『齋王国歌文学の史的研究』国書刊行会、1989年4月）

安西奈保子「後醍醐天皇をめぐる三人の齋宮たち—獎子内親王・権子内親王・祥子内親王—」（『日本文学研究』第23号、1987年11月）

山中智恵子「牝子内親王—帝王後醍醐の同胞—」（同氏『続齋宮志』砂子屋書房、1992年4月）

山中智恵子「牝子内親王」（同氏『齋宮劄記』砂子屋書房、1993年6月）

長塩智恵「鎌倉後期の齋王制度」（『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要』史学編第10号、2011年3月）

(4) 崇明門院

星野 恒「大日本史孕十八月生子ノ謬筆」（同氏『史学叢説』第2集、富山房、1909年9月）

安西奈保子「二人の牝子内親王—「せめて猶」の歌をめぐって—」（『藝林』第39巻第1号、1990年3月）

VI. 後宇多の皇孫**(1) 邦良親王**

林 瑞栄「『兼好歌集』の邦良皇太子との連歌の示すもの」（『山形女子短期大学紀要』第4集、1970年3月→同氏『兼好発掘』筑摩書房、1983年2月）

林 瑞栄「『兼好歌集』の邦良皇太子との連歌の示すもの 続考—堀川家と兼好の関係に関する一考察—」（『山形女子短期大学紀要』第5集、1971年3月→同氏『兼好発掘』筑摩書房、1983年2月）

(2) 邦省親王

和田英松「邦省親王」（同氏『皇室御撰之研究』明治書院、1933年4月）

→復刻版、国書逸文研究会、1986年7月）

森 茂暁「邦省親王の悲願—もう一つの大覚寺統分枝—」（『政治経済史学』第332号、1994年2月→同氏『中世日本の政治と文化』思文閣史学叢書、思文閣出版、2006年10月）

保立道久「創建期の大徳寺と王権—開堂前後の時期に視点をおいて—」（同氏編『禅宗寺院文書の古文書学的研究—宗教史と史料論のはざま—』平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（2））研究成果報告書（課題番号14201031）、2005年3月）

松 蘭 斉「中世の宮家について—南北朝・室町期を中心に—」（『愛知学院大学人間文化研究所紀要 人間文化』第25号、2010年9月）

（3）聖尊法親王

武石彰夫「兼好歌集に見る顕密圏」（『東洋研究』第33号、1973年9月→同氏『仏教文学論考』白帝社、1974年5月）

新井弘順「〔東洋音楽学会第30回 研究発表要旨〕『音律菁花集』について」（『東洋音楽研究』第45号、1980年8月）

新井弘順「上野学園日本音楽資料室蔵東寺宝菩提院旧蔵 音律肝要」（『東洋音楽研究』第49号、1984年9月）

今川佳世子「醍醐寺遍智院をめぐる三宝院賢俊と遍智院宮聖尊の相論について」（『鴨台史学』第4号、2004年3月）

VII. 大覚寺統の親王

（1）恒明親王

岩佐美代子「花園院宸記をめぐる歌人達」（同氏『京極派歌人の研究』笠間書院、1974年4月→改訂新装版、2007年12月）

河村昭一「足羽御厨（足羽庄）の伝領について（上）（中）（下）」（『若越郷土研究』第31巻第3号～第31巻第5号、1986年6月～9月）

森 茂暁「「恒明親王立坊事書案」について」（田村圓澄先生古稀記念会編『東アジアと日本』歴史篇、吉川弘文館、1987年12月）→「皇統の対立と幕府の対応—「恒明親王立坊事書案 徳治

二年」をめぐって一」（同氏『鎌倉時代の朝幕関係』思文閣史学叢書、思文閣出版、1991年6月）

網野善彦「ある貴族が記録した出産」（同氏ほか編『いまは昔 むかしは今』第5巻 人生の階段、福音館書店、1999年2月）

松菌 斉「中世の宮家について—南北朝・室町期を中心に—」（『愛知学院大学人間文化研究所紀要 人間文化』第25号、2010年9月）

（2）守良親王

中川泉三「守良親王の御活動」（同氏編『近江蒲生郡志』巻9、滋賀県蒲生郡役所、1922年3月）

平泉 澄「史上に湮滅せし五辻宮」（『太陽』第28巻第11号、1922年9月→同氏『我が歴史観』至文堂、1926年5月→復刻版、皇學館大学出版部、1983年4月）

西岡虎之助「中世における一荘園の消長」（『歴史学研究』第6巻第9号、1936年7月→同氏『荘園史の研究』上巻、岩波書店、1953年4月）

田原慶吉「色川文書の再検討—残された二個の疑問—」（『紀州文化研究』第1巻第11号、1937年11月）

村田正志「文献学講義教材三種 海蔵院文書」（『村田正志著作集』第6巻 古文書研究、思文閣出版、1985年8月）

大谷雄一「五辻宮考」（『四条畷紀要』第2号、1989年11月）

高橋一樹「畿内近国における鎌倉幕府の寺領荘園支配—法隆寺領播磨国鵜荘—」（同氏『中世荘園制と鎌倉幕府』塙書房、2004年1月）

山田 徹「天竜寺領の形成」（『ヒストリア』第207号、2007年11月）

Ⅷ. 大覚寺統の追善仏事・葬送

堀田葦男「恵琳上人筆「法華経」に就いて」（『書誌学』第4巻第2号、1935年2月）

近藤成一「鎌倉幕府の成立と天皇」（永原慶二ほか編『講座 前近代の天皇』第1巻 天皇権力の構造と展開 その1、青木書店、1992年12月）

- 布谷陽子「承久の乱後の王家と後鳥羽追善仏事」（羽下徳彦編『中世の地域と宗教』吉川弘文館、2005年1月）
- 徳永誓子「後鳥羽院怨霊と後嵯峨皇統」（『日本史研究』第512号、2005年4月）
- 遠藤基郎「鎌倉中後期の天皇家王権仏事—天皇家王権仏事の事件史（その三）—」「鎌倉後期の天皇家御願寺」（同氏『中世王権と王朝儀礼』東京大学出版会、2008年11月）
- 大塚未来「中世天皇家の葬送—実務執行方法を中心に—」（『国史学』第202号、2010年12月）

L. 知行国・荘園

I. 大覚寺統の知行国・知行国主補任

- 村田正志「建武中興と国衙領」（『歴史地理』第75巻第2号、1940年2月）→「国衙領制度」（同氏『南北朝史論』中央公論社、1949年10月）→『村田正志著作集』第1巻 南北朝史論、思文閣出版、1983年3月）
- 松浦正一「御分国と上皇御領」（香川県教育委員会編『新修香川県史』香川県教育委員会、1953年3月）
- 弥永貞三「美濃国国衙領」（岐阜県編『岐阜県史』通史編 中世、岐阜県、1969年3月）
- 橋本義彦「院宮分国と知行国」（竹内理三博士還暦記念会編『律令国家と貴族社会』吉川弘文館、1969年6月）→同氏『平安貴族社会の研究』吉川弘文館、1976年9月）
- 田中健二「嘉元四年六月十二日昭慶門院御領目録案にみえる讃岐国関係記事について」（『香川史学』第12号、1983年6月）
- 田中健二「両統の迭立と讃岐国」「公領の変質」（香川県編『香川県史』別編I 第2巻 通史編 中世、香川県、1989年3月）
- 田中健二「大覚寺統分国讃岐国について」（九州大学国史学研究室編『古代中世史論集』吉川弘文館、1990年8月）
- 遠藤基郎「鎌倉後期の知行国制」（『国史談話会雑誌』第32号、1991年9月）

- 佐藤 圭「公家政権と越前国」（福井市編『福井市史』通史編1 古代・中世、福井市、1997年3月）
- 田中健二「荘園制の確立」（木原溥幸ほか『香川県の歴史』山川出版社、1997年10月）
- 名子 学「鎌倉時代後半における越前気比社の造営事業」（『文化史学』第59号、2003年11月）
- 宮本晋平「鎌倉期公家知行国の国務運営」（『史林』第87巻第5号、2004年9月）
- 大澤 泉「鎌倉後期の国衙領興行と知行国主の変遷—若狭国を中心に—」（『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第4分冊 第55輯、2010年2月）
- 佐藤 圭「鎌倉時代の越前守について」（『立命館文学』第624号、2012年1月）

Ⅱ. 大覚寺統荘園の伝領・構造

- 栗田 寛『荘園考』（大八洲学会、1888年7月→栗田勤編『栗里先生雑著』中、吉川半七、1901年7月）
- 栗田 寛「御邑御領沿革考」（栗田勤編『栗里先生雑著』上、吉川半七、1901年7月）
- 八代国治「神社と皇室御領」（『神社協会雑誌』第9年第8号、1910年8月）
- 八代国治「七条院御領考」（『歴史地理』第16巻第3号、1910年9月→同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月）
- 八代国治「鎌倉時代の寺院と公武第宅」（『歴史と地理』第7巻第5号、1921年5月→史学地理学同攷会編『鎌倉時代の文化』星野書店、1925年10月）
- 中村直勝「安楽寿院」（『京都府史蹟勝地調査会報告書』第6冊、1925年6月→復刻版、臨川書店、1983年6月）→「安楽寿院の研究」（同氏『南朝の研究』星野書店、1927年6月→『中村直勝著作集』第3巻 南朝の研究、淡交社、1978年4月）→「安楽寿院領」（同氏『荘園の研究』星野書店、1939年10月→『中村直勝著作集』第4巻 荘園の研究、淡交社、1978年9月）

- 中村直勝「室町院領（上）（中）（下）」（『歴史と地理』第33巻第1号～第3号、1934年1月～3月）→「室町院領」（同氏『吉野朝史』星野書店、1935年6月→『中村直勝著作集』第3巻南朝の研究、淡交社、1978年4月）→「室町院領」（同氏『荘園の研究』星野書店、1939年10月→『中村直勝著作集』第4巻 荘園の研究、淡交社、1978年9月）
- 帝室林野局（蘆田伊人）「兩統迭立時代の御料地」（同局編『御料地史稿』帝室林野局、1937年12月）
- 中村直勝「家領の伝領に就いて（上）（下）」（『史林』第23巻第3号・第4号、1938年7月・10月）→「家領の伝領に就いて」（同氏『荘園の研究』星野書店、1939年10月→『中村直勝著作集』第4巻 荘園の研究、淡交社、1978年9月）
- 奥野高広「七条院御領に就いて」（『國學院雑誌』第47巻第5号、1941年5月）
- 高柳光寿「国家成立過程に於ける神社の意義」（『日本歴史』第18号、1949年8月→同氏『高柳光寿史学論文集』上、吉川弘文館、1970年12月）
- 奥野高広「皇室御領と神社」（『国史学』第55号、1951年7月）
- 奥野高広「六勝寺領について」（『國學院雑誌』第57巻第7号、1956年12月）
- 小島鉦作「荘園制の進展と社寺の荘園化」（『成蹊大学政治経済論叢』第9巻第1号、1959年6月）
- 永原慶二「荘園制の歴史的位罫」（『一橋大学研究年報 経済学研究』第4号、1960年6月→同氏『日本封建制成立過程の研究』岩波書店、1961年4月→『永原慶二著作選集』第2巻 日本封建制成立過程の研究、吉川弘文館、2007年8月）
- 平林盛得「後宇多院御領目録」（続群書類従完成会編『群書解題』第21巻、続群書類従完成会、1962年1月→改訂版、『群書解題』第8巻、続群書類従完成会、1986年9月）
- 渡辺澄夫「公武権力と荘園制」（『岩波講座 日本歴史』第5巻 中世1、岩波書店、1962年11月）
- 奥野高広「皇室御領荘園」（『日本歴史』第184号、1963年9月）
- 阿部 猛「六勝寺領一補遺一」（『日本歴史』第255号、1969年8月）

- 小島鉦作「社寺の荘園化とその機能」（『立正史学』第34号、1970年3月）
- 福田以久生「『御領目録』の送進について」（『古文書研究』第24号、1985年9月）
- 阿部 猛「六勝寺領考」（『帝京史学』第2号、1986年9月）
- 野村育代「中世における天皇家—女院領の伝領と養子—」（前近代女性史研究会編『家族と女性の歴史—古代・中世—』吉川弘文館、1989年8月）→「不婚内親王の准母立后と女院領の伝領」（同氏『家族史としての女院論』歴史科学叢書、校倉書房、2006年4月）
- 伴瀬明美「院政期～鎌倉期における女院領について—中世前期の王家の在り方とその変化—」（『日本史研究』第374号、1993年10月）
- 藤井雅子「兩統迭立期における皇統領の「管領」と「政務」」（『史艸』第35号、1994年11月）
- 小島鉦作『小島鉦作著作集』第1巻 神社領知制の研究（吉川弘文館、1995年6月）
- 金井静香「中世における后妃女院領の形成と領有構造—西園寺家出身の女院を中心に—」「中世における皇女女院領の形成と伝領—昭慶門院領を中心に—」「再編期王家領荘園群の存在形態—鎌倉後期から南北朝まで—」（同氏『中世公家領の研究』思文閣史学叢書、思文閣出版、1999年2月）
- 伴瀬明美「東寺に伝来した室町院遺領相論関係文書について」（『史学雑誌』第108編第3号、1999年3月）
- 伴瀬明美「鎌倉時代の女院領に関する新史料—『東寺観智院金剛藏聖教』第二八〇箱二一〇号文書について—」（『史学雑誌』第109編第1号、2000年1月）
- 長田郁子「鎌倉期の八条院領と天皇家—播磨国矢野荘と摂津国野鞍荘を中心に—」（『古文書研究』第51号、2000年4月）
- 野口華世「安嘉門院と女院領荘園—平安末・鎌倉期の女院領の特質—」（『日本史研究』第456号、2000年8月）
- 布谷陽子「七条院領の伝領と四辻親王家—中世王家領伝領の一形態—」（『日本史研究』第461号、2001年1月）

- 高橋一樹「院御願寺領の形成と展開—中世前期の最勝光院領を素材に—」
（『国立歴史民俗博物館研究報告』第108集、2003年10月）
- 野口華世「「安楽寿院文書」にみる御願寺の構造—「安楽寿院文書」の
翻刻とその検討—」（『〔東京都立大学人文学部〕人文学報』
第357号 歴史学編第33号、2005年3月）
- 野口華世「安楽寿院と高倉家—東京大学史料編纂所所蔵「安楽寿院文書」
の紹介—」（『東京大学史料編纂所研究紀要』第15号、2005
年3月）
- 野口華世「中世前期の王家と安楽寿院—「女院領」と女院の本質—」（『ヒ
ストリア』第198号、2006年1月）
- 伴瀬明美「中世の天皇家と皇女たち」（『歴史と地理』第597号、2006
年9月）
- 中井裕子「世良親王遺領と臨川寺の創建」（原田正俊編『天龍寺文書の
研究』思文閣出版、2011年3月）
- 榎原雅治「南朝系比丘尼御所保安寺について—世良親王の遺領に関する
—考察—」（『国史学』第203号、2011年6月）
- 七海雅人・片岡耕平・小佐野浅子「遠藤家蒐集中世文書について」（白
石市教育委員会編『白石市文化財調査報告書第40集 伊達氏
重臣遠藤家文書・中島家文書～戦国編～』白石市歴史文化を
活用した地域活性化実行委員会、2011年12月）

Ⅲ. 鎌倉後期の貴族社会と荘園制

- 岡野友彦「久我家領荘園の伝領とその相続安堵」（『史学雑誌』第97編
第4号、1988年4月→同氏『中世久我家と久我家領荘園』続
群書類従完成会、2002年10月）
- 金井静香「公家領安堵の変遷」（『史林』第78巻第3号、1995年3月→
同氏『中世公家領の研究』思文閣史学叢書、思文閣出版、1999
年2月）
- 西谷正浩「鎌倉期における貴族の家と荘園」（『日本史研究』第428号、
1998年4月）→「公家権門における家産体制の変容」「鎌倉
時代における貴族社会の変容」（同氏『日本中世の所有構造』
塙書房、2006年11月）
- 金井静香「中世の相続制度と公家領」「中世公家社会の恩領」（同氏『中

- 世公家領の研究』思文閣史学叢書、思文閣出版、1999年2月)
- 高橋一樹「鎌倉後期～南北朝期における本家職の成立」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第104集、2003年3月)→「鎌倉後期～南北朝期における本家職の創出」(同氏『中世荘園制と鎌倉幕府』塙書房、2004年1月)
- 高橋一樹「重層的領有体系の成立と鎌倉幕府」(同氏『中世荘園制と鎌倉幕府』塙書房、2004年1月)
- 金井静香「鎌倉後期～南北朝期における荘園領主の変容一本所と中世国家」(『日本史研究』第535号、2007年3月)
- 佐藤泰弘「権門と聖断」(『鎌倉遺文研究』第22号、2008年10月)
- 佐藤泰弘「領家職についての基本的考察」(『日本史研究』第561号、2009年5月)
- 高橋一樹「鎌倉幕府における権門間訴訟の奉行人」(『年報三田中世史研究』第16号、2009年10月)
- 野口華世「中世前期公家社会の変容」(『歴史学研究』第872号、2010年10月)

IV. 大覚寺統荘園の個別研究

(1) 山城

- 源城政好「東寺領上桂荘における領主権確立過程について—伝領とその相論—」(日本史研究会史料研究部会編『中世の権力と民衆』創元学術双書、創元社、1970年6月→同氏『京都文化の伝播と地域社会』思文閣史学叢書、思文閣出版、2006年10月)
- 京都府立総合資料館歴史資料課編(武田修編集担当)『第七回東寺百合文書展 上桂庄—伝領と相論—』(京都府立総合資料館、1990年7月)
- 武田 修「第七回東寺百合文書展「上桂庄—伝領と相論—」を終えて」(『資料館紀要』第19号、1991年3月)
- 伊藤一義「山城国上野荘史料目録(一)」(『東北学院大学論集 法律学』第39号、1991年9月)
- 上島 有「山城国上桂庄の一通の謀作文書(一)(二)」(『古文書研究』第70号～第71号、2010年11月～2011年5月)

（2）大和

西山 克「宇陀の荘園」（新訂大宇陀町史編集委員会編『新訂 大宇陀町史』大宇陀町、1992年2月）

堀池春峰「平安時代 檜牧荘（庄）」（榛原町史編集委員会編『榛原町史』榛原町役場、1993年3月）

（3）河内

宮川 満「大覚寺統の荘園」（大阪府史編集専門委員会編『大阪府史』第3巻 中世編Ⅰ、大阪府、1979年11月→『宮川満著作集』2 摂河泉の荘園、第一書房、1999年1月）

河音能平「中世美原町域および周辺の荘園」（美原町史編纂委員会編『美原町史』第1巻 本文編、美原町、1999年9月）

中野祥利「寝屋川市をめぐる中世荘園一点野庄・池田庄・野田庄を事例に―」（『〔寝屋川〕市史紀要』第9号、2002年3月）

遠城悦子「室町院領河内国石川庄・肥前国三重屋庄に関する一考察」（『ソシアル・リサーチ』第33号、2008年5月）

（4）和泉

宮川 満「大覚寺統の荘園」（大阪府史編集専門委員会編『大阪府史』第3巻 中世編Ⅰ、大阪府、1979年11月→『宮川満著作集』2 摂河泉の荘園、第一書房、1999年1月）

丹生谷哲一・宮川満「網曳御厨・宇多荘の動向」（忠岡町史編さん委員会編『忠岡町史』第1巻 本文編、忠岡町、1990年12月）

堀内和明「御家人宇多氏と王家領宇多庄」（泉大津市史編さん委員会編『泉大津市史』第1巻 上 本文編Ⅰ、泉大津市、2004年3月）

（5）摂津

有馬郡誌編纂管理者 山脇延吉「総叙」（同氏編『有馬郡誌』上、1929年9月）

宮川 満「大覚寺統の荘園」（大阪府史編集専門委員会編『大阪府史』第3巻 中世編Ⅰ、大阪府、1979年11月→『宮川満著作集』2 摂河泉の荘園、第一書房、1999年1月）

長田郁子「摂津国野鞍荘とその史料をめぐる一相論関係文書を中心に

- 一」(福田榮次郎編『中世 史料採訪記—史料論の展開と史料調査の旅—』ぺりかん社、1998年5月→新訂版、1998年9月)
- 小林仁水「摂津国仲荘の伝領過程について(一)(二)」(『歴史と神戸』第254号・第258号、2006年2月～10月)
- 元木泰雄「公武政権と荘園の動き」(三田市史編さん専門委員監修、三田市まちづくり部生涯学習支援室生涯学習課市史編さん担当編『三田市史』第1巻 通史編I、三田市、2011年3月)
- 野田泰三「荘園と人々の暮らし」(三田市史編さん専門委員監修、三田市まちづくり部生涯学習支援室生涯学習課市史編さん担当編『三田市史』第1巻 通史編I、三田市、2011年3月)

(6) 尾張

- 小島鉦作「尾張国真清田社の荘園的領知について」(『成蹊大学政治経済論叢』第10巻第1号、1960年6月)→「尾張国真清田社」(『小島鉦作著作集』第1巻 神社領知制の研究、吉川弘文館、1995年6月)
- 弥永貞三・須磨千穎「醍醐寺領尾張国安食庄について—新発見の相論絵図をめぐる—」(『〔醍醐寺文化財研究所〕研究紀要』第5号、1983年3月)
- 白山芳太郎「中世の真清田神社」(真清田神社史編纂委員会編『真清田神社史』真清田神社史編纂委員会、1994年5月)
- 松島周一「鎌倉末期の甚目寺庄相論について」(『日本文化論叢』第19号、2011年3月)

(7) 三河

- 旭 澄江「荘園の推移」(豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会編『豊田市史』第1巻 自然・原始・古代・中世、豊田市、1976年3月)
- 鈴木勝也「中世足助氏に関する一考察」(『皇学館史学』第12号、1997年3月)
- 横山和弘「三河国高橋荘覚書—豊田市郷土資料館「豊田市の城下町展」に接して—」(『歴史の理論と教育』第111号、2002年3月)

（8）遠江

湯之上隆「袋井周辺の庄園と武士の動向」（袋井市史編纂委員会『袋井市史』通史編、袋井市役所、1983年11月）

（9）甲斐

秋山 敬「庄園の発達 鎌田荘」（『甲府市史』通史編第1巻 原始・古代・中世、1991年4月）

秋山 敬『甲斐の庄園』（甲斐新書5、甲斐新書刊行会・岩田書院、2003年11月）

（10）相模

島崎直人「二宮河勾荘とその周辺」（二宮町編『二宮町史』通史編、二宮町、1994年3月）

藤井豊久「中世的開発と庄園・公領の展開」（小田原市編『小田原市史』通史編 原始 古代 中世、小田原市、1998年3月）

（11）武蔵

八代国治「皇室御領より見たる川越」（『武蔵野』第4巻第2・第3号、1921年9月）

落合義明「武蔵国河越荘について一南北朝期以降の伝領関係を中心として一」（『湘南史学』第14号、1995年3月→峰岸純夫監修・岡田清一編『河越氏の研究』第2期 関東武士研究叢書第4巻、名著出版、2003年1月）→「武蔵国河越荘の支配構造」（同氏『中世東国の「都市的な場」と武士』山川歴史モノグラフ7、山川出版社、2005年11月）

（12）下総

福島金治「得宗専制下の房総」（財団法人 千葉県史料研究財団編『千葉県の歴史』通史編 中世、千葉県、2007年3月）

野村朋弘「大覚寺統領としての下河辺庄」（永井晋編『金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究』平成19年度～平成21年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書（課題番号19520593）、2010年3月）

(13) 常陸

- 板澤武雄「北畠親房の常陸下著は漂著にあらず」（『歴史と地理』第15巻第2号、1925年2月）
- 網野善彦「常陸国信太荘について」（『茨城県史研究』第4号、1966年3月→同氏『中世東寺と東寺領荘園』東京大学出版会、1978年11月→『網野善彦著作集』第2巻 中世東寺と東寺領荘園、岩波書店、2007年9月）
- 土浦市史編さん委員会「荘園制下の土浦地方」（同委員会編『土浦市史』土浦市史刊行会、1975年11月）
- 雨谷 昭「東寺文書にみえる信太荘」（『阿見町史研究』第4号、1983年3月→同氏『常陸史の研究』私家版、1993年3月）
- 盛本昌弘「東寺領信太荘の成立」（竜ヶ崎市史編さん委員会編『竜ヶ崎市史』中世編、竜ヶ崎市教育委員会、1998年3月）

(14) 近江

- 中川泉三「皇室御領 八条院領 比牟礼庄」（同氏編『近江蒲生郡志』巻1、滋賀県蒲生郡役所、1922年3月）
- 中川泉三「荘園志 臨川寺領橋本御厨 皇室御領龍門庄」（同氏編『近江栗太郡志』巻1、滋賀県栗太郡役所、1926年6月）
- 福尾猛市郎「比牟礼庄」（同氏編『滋賀県八幡町史』上 通説、八幡町、1940年1月）
- 中村直勝「伊香庄」（富田八右衛門編『近江伊香郡志』江北図書館、1952年12月）
- 熊谷幸次郎「日撫神社古鐘の銘文について」（『日本歴史』第278号、1971年7月→同氏『古鐘巡礼記』同朋舎出版、1980年10月）
- 福田榮次郎「近江国伊香荘の伝領関係について」（『日本歴史』第331号、1975年12月）
- 執筆者不明「鎌倉・南北朝の近江町 荘園の展開」（近江町史編さん委員会編『近江町史』近江町役場、1989年11月）
- 熊谷隆之「清水山城下の荘園—高島荘と広瀬荘—」（高島市教育委員会編『高島市文化財調査報告書』第4集 清水山城館跡現況調査報告書I 清水山城館跡周辺現況調査、高島市教育委員会、2006年3月）

（15）美濃

- 網野善彦「皇室領荘園」（岐阜県編『岐阜県史』通史編 中世、岐阜県、1969年3月）→「美濃国 天皇家領荘園」（同氏『日本中世土地制度史の研究』塙書房、1991年3月→『網野善彦著作集』第4巻 荘園・公領の地域展開、岩波書店、2009年1月）
- 清水 進「各務原と中世荘園」（各務原市教育委員会編『各務原市史』通史編 自然・原始・古代・中世、各務原市、1986年12月）
- 長沼 毅「中世可見地域の荘園・公領」（可見市編『可見市史』第2巻 通史編 古代・中世・近世、可見市、2010年8月）

（16）信濃

- 堀内千万蔵「榛ノ庄の研究」（『信濃』第7巻第7号、1938年7月）
- 信濃教育会「皇室御領」（同会編『建武中興を中心としたる 信濃勤王史攷』信濃毎日新聞株式会社、1939年1月→分冊修訂版（全2冊）、信濃史学会、1977年12月～1978年7月）
- 井原今朝雄「鎌倉時代の社会 公領と荘園」（長野県編『長野県史』通史編 第2巻 中世1、長野県、1986年3月）

（17）下野

- 八代国治「足利庄の文化と皇室御領」（『歴史と地理』第2巻第5号、1918年11月→同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月）
- 田沼 睦「八木岡荘と八木岡氏」（真岡市史編さん委員会編『真岡市史』第6巻 原始古代中世通史編、真岡市、1987年3月）

（18）出羽

- 入間田宣夫「出羽国の荘園」（山形県編『山形県史』第1巻 原始・古代・中世編、山形県、1982年3月）

（19）越前

- 八代国治「皇室御領と気比神宮」（『歴史地理』第28巻第5号、1916年11月→同氏『国史叢説』吉川弘文館、1925年5月）
- 多賀谷健一「織田氏姓系考（上）（下）」（『史学雑誌』第49編第11号～第12号、1938年11月～12月）

- 小島鉦作「越前国気比宮の荘園的領知について」（『成蹊大学政治経済論叢』第11巻第2号、1961年11月）→「越前気比宮の社会経済史的考察」（『小島鉦作著作集』第3巻 神社の社会経済史的研究、吉川弘文館、1987年2月）
- 熱田 公「古代・中世の和泉村」（小葉田淳監修『和泉村史』和泉村、1977年3月）
- 三浦圭一「気比社の動向」（敦賀市史編さん委員会編『敦賀市史』通史編 上巻、敦賀市、1985年6月）
- 佐藤 圭「越前国足羽郡の中世荘園について」（『福井県立博物館紀要』第3号、1989年3月）
- 外岡慎一郎「中世気比社領の基礎的考察—「建曆社領注文」とその周辺—」（『福井県史研究』第11号、1993年2月）
- 佐藤 圭「越前の荘園・国衙領と地頭・御家人」（福井県編『福井県史』通史編2 中世、福井県、1994年3月）
- 外岡慎一郎「越前国一宮」（福井県編『福井県史』通史編2 中世、福井県、1994年3月）
- 小島鉦作「越前国気比社」（『小島鉦作著作集』第1巻 神社領知制の研究、吉川弘文館、1995年6月）
- 栗山圭子「織田荘の伝領過程」（越前町教育委員会編『越前町織田史（古代・中世編）』越前町、2006年12月）

（20）加賀

- 近藤成一「中家相伝の所帯、他人知行の号を残さず」（『遙かなる中世』第10号、1989年10月）
- 室山 孝「郡家荘と勸修寺」（新修根上町史編纂専門委員会編『新修 根上町史』通史編、根上町役場、1995年3月）
- 近藤成一「倉月庄と中原氏・撰津氏」（『金沢市史会報』第3号、1998年3月）

（21）越中

- 米沢 康「荘園と武士・農民」（井波町史編纂委員会編『井波町史』上巻、井波町、1970年5月）
- 大山喬平・木本秀樹・楠瀬勝・久保尚文「荘園の様相」（富山県編『富

山県史』通史編Ⅱ 中世、富山県、1984年3月）

（22）丹波

丹波史談会「荘園」（同会編『丹波氷上郡志』上巻、丹波史談会事務所、1927年12月→復刻版、兵庫県郷土誌叢刊、臨川書店、1985年7月）

細見末雄『丹波の荘園』（名著出版、1980年7月）

川端二三三郎「中世の三和」（三和町史編さん委員会編『三和町史』上巻 通史編、三和町、1995年3月）

（23）但馬

山根辰治「水谷庄について」（『歴史地理』第78巻第6号、1941年12月）

（24）因幡

錦織 勤「因幡国服部庄の伝領に関する基礎的考察」（『鳥取大学教育学部研究報告 人文社会科学』第43巻第1号、1992年8月）

石井伸宏編『庭先にひろがる中世—因幡国荘園の世界—』（鳥取市歴史博物館、2011年4月）

石井伸宏「因幡国服部荘について」（鳥取市歴史博物館編『因幡地方の歴史と文化』鳥取市文化財団叢書第1集、鳥取市文化財団、2012年3月）

（25）出雲

島根県学務部島根県史編纂掛「本県内の庄園と地頭」（同編『島根県史』第6巻 守護地頭時代、島根県、1927年6月）

朝山 皓「佐陀庄地頭としての朝山氏」（『社会経済史学』第1巻第3号、1931年10月）

小島鉦作「中世の出雲大社と社寺領知制」（千家尊宣先生還暦記念神道論文集編纂委員会編『千家尊宣先生還暦記念 神道論文集』神道学会、1958年9月）→「出雲国杵築社」（『小島鉦作著作集』第1巻 神社領知制の研究、吉川弘文館、1995年6月）

小島鉦作「出雲国における神社の荘園化」（神道学会編『出雲学論攷』

出雲大社、1977年1月)

井上寛司「「地方の時代」の到来」(宍道町史編纂委員会編『宍道町史』
通史編 上巻、宍道町、2001年2月)

原 慶三「中世前期出雲大社史の再検討—文書の声を聴く—」(『島根
県立三刀屋高等学校研究紀要』第18号、2004年3月)

(26) 播磨

西岡虎之助「守護大名領下の寺領荘園—大徳寺領播磨国小宅荘三職方—」
(高村象平・小松芳喬編『野村博士還暦記念論文集 封建制と
資本制』有斐閣、1956年3月)

網野善彦「悪党・代官・有力名主—鎌倉・南北朝期の播磨国矢野荘を中
心に—」(『歴史学研究』第298号、1965年3月→同氏『中
世東寺と東寺領荘園』東京大学出版会、1978年11月→『網
野善彦著作集』第2巻 中世東寺と東寺領荘園、岩波書店、2007
年9月)

上島 有「鎌倉時代の播磨国矢野庄について」(『古文書研究』第7・
8合併号、1975年2月)

石田善人「荘園と国衙領」「内乱と武士の動き」(龍野市史編纂専門委
員会編『龍野市史』第1巻、龍野市、1978年9月)

馬田綾子・熱田公「中世相生の展開」(相生市史編纂専門委員会編『相
生市史』第1巻、兵庫県相生市・相生市教育委員会(市史編
纂室)、1984年3月)

坂田大爾・藤原孝三・前川良一・依藤保「北播磨の荘園(上)—加東郡
・加西郡の荘郷—」(『歴史と神戸』第27巻第4号、1988
年8月)

石田善人「賀古荘・賀古新荘・大国荘・今福荘など—その他の荘園と公
領—」(加古川市史編さん専門委員編『加古川市史』第1巻
本編I、兵庫県加古川市、1989年3月)

坂田大爾・藤原孝三・前川良一・依藤保「北播磨の荘園(下)—多可郡
の荘郷・埴鹿山—」(『歴史と神戸』第28巻第3号、1989
年6月)

湯山 学「武蔵猪俣党の新史料—藤田・河匂・荏原三氏に関して—」(『埼
玉地方史』第25号、1989年6月→『湯山学中世史論集』3

武蔵武士の研究、岩田書院、2010年5月）

佐藤和彦「鎌倉末期の東寺領荘園—正和年間の史料を読む—」（鎌倉遺文研究会編『鎌倉遺文研究』Ⅲ 鎌倉期社会と史料論、東京堂出版、2002年5月）

櫻井 彦「矢野荘における寺田法念の立場」（同氏『悪党と地域社会の研究』歴史科学叢書、2006年2月）

栗山圭子「王家領荘園の成立と伝領」（加西市史編さん委員会編『加西市史』第1巻 本編1 考古・古代・中世、加西市、2008年3月）

近藤成一「安堵状の形態と機能」（鶴島博和・春田直紀編『日英中世史料論』日本経済評論社、2008年7月）

樋口健太郎「南禅寺領大塩荘の成立」「印南荘の支配」「小松原荘の支配」（高砂市史編さん専門委員会編『高砂市史』第1巻 通史編 地理・考古・古代・中世、高砂市、2011年10月）

（27）美作

三浦隆志「荘園と公領の世界 美作国埴和荘」（建部町編『建部町史』通史編、建部町、1995年3月）

榎原雅治「美作国埴和庄と埴和氏」（『吉備地方文化研究』第16号、2006年3月）

（28）備前

中野栄夫「備前国香登荘関係史料について」（『〔岡山大学教育学部〕研究集録』第50号第1輯、1979年3月）

中野栄夫「備前国香登荘」（『岡山県史研究』第5号、1983年3月→同氏『荘園の歴史地理的世界』同成社中世史選書2、同成社、2006年12月）

中野栄夫「中世備前地方の社会構造」（岡山県史編纂委員会編『岡山県史』第4巻 中世Ⅰ、岡山県、1989年3月）

田中健二「備前国小豆島庄の本家と領家」（『香川の歴史』第10号、1990年2月）

三浦隆志「荘園と公領の世界 備前国長田荘」（建部町編『建部町史』通史編、建部町、1995年3月）

橋本道範「王家領備前国豊原庄の基礎的研究」（『吉備地方文化研究』第16号、2006年3月）

橋本道範「平安時代末期・鎌倉時代の邑久」（邑久町史編纂委員会編『邑久町史』通史編、瀬戸内市、2009年3月）

（29）備中

中野栄夫「備中国三成荘をめぐって」（『岡山県史研究』第3号、1982年3月→同氏『荘園の歴史地理的世界』同成社中世史選書2、同成社、2006年12月）

（30）安芸

沢井常四郎『芸備の荘園—保厨 官道 郡郷—』（三原図書館、1941年8月）

松岡久人「古代・中世の能美島」（大柿町教育委員会編『大柿町史—瀬戸内海島嶼村落の歴史—』広島県佐伯郡大柿町役場、1954年10月）

角重 始「芸備の荘園・公領」（広島県編『広島県史』中世 通史Ⅱ、広島県、1984年3月）

市田弘昭「古代・中世の海田 鎌倉時代」（広島県安芸郡海田町編『海田町史』通史編、広島県安芸郡海田町、1986年9月）

（31）周防

田村哲夫「防長庄園の分布状態について—鎌倉時代を中心に—」（『山口県地方史研究』第9号、1963年6月）

田村哲夫「防長庄園の地域的考察（前編）（後編）」（『山口県文書館研究紀要』第2号～第3号、1973年3月～1974年3月）

（32）紀伊

熱田 公「荘園の生活」（海南市史編さん委員会編『海南市史』第1巻 通史編、海南市、1994年6月）

（33）阿波

沖野舜二「阿波国庄園考」（『徳島大学学芸紀要』社会科学第10巻、1961

年 3 月)

沖野舜二「続阿波国庄園考」（『徳島大学学芸紀要』社会科学第 11 巻、
1962 年 3 月）

（34）讃岐

松浦正一「御願寺領」「女院領」「寺領」（香川県教育委員会編『新修
香川県史』香川県教育委員会、1953 年 3 月）

羽床正昭「保の成立についての一考察—陶・円座両保を中心にして—」
（『香川史学』第 14 号、1985 年 6 月）

山崎ゆり子「讃岐国長尾荘—その成立と領有の変遷—」（『香川の歴史』
第 6 号、1986 年 1 月）

山崎ゆり子「醍醐寺領讃岐国長尾荘」（『香川史学』第 15 号、1986 年 6
月）

田中健二「讃岐国における庄園制の展開に関する覚書」（『香川の歴史』
第 7 号、1987 年 12 月）

田中健二「讃岐国の郷名庄園について」（『香川大学教育学部研究報告』
第 I 部第 89 号、1993 年 9 月）

田中健二「庄園と公領」（丸亀市史編さん委員会編『新編丸亀市史』1
自然・原始・古代・中世編、丸亀市、1995 年 2 月）

（35）伊予

山内 譲「安楽寿院領桑村郡吉岡荘について」（『伊予史談』第 261 号、
1986 年 4 月）

（36）土佐

山本 大「皇室・摂関家領庄園」（高知県編『高知県史』古代・中世編、
高知県、1971 年 4 月）

山本 大「土佐国庄園研究序説」（同氏編『高知の研究』第 2 巻 古代・
中世篇、清文堂出版、1982 年 11 月）

（37）筑前

石井 進「一四世紀初頭における在地領主法の一形態—「正和二年宗像

社事書条々」おぼえがき—（一）～（三）」（『中世の窓』第1号～第3号、1959年5月・8月・11月→同氏『日本中世国家史の研究』岩波書店、1970年7月→『石井進著作集』第6巻 中世社会論の地平、岩波書店、2005年2月）

玉泉大梁「鎌倉時代の土地制度」（同編『福岡県史』第1巻下冊、福岡県、1962年3月）

小島鉦作「筑前宗像社の荘園的領知の成立と展開」（『成蹊大学政治経済論叢』第14巻第3号、1964年12月）

宗像神社復興期成会「社領経済 中世 領地制」（同会編『宗像神社史』下巻、宗像神社復興期成会、1966年12月）

小島鉦作「筑前国宗像社」（『小島鉦作著作集』第1巻 神社領知制の研究、吉川弘文館、1995年6月）

（38）豊後

渡辺澄夫「解説」（同氏編『豊後国荘園公領史料集成』8（上）豊後国長野荘（本荘・新荘＝球珠荘）・古後郷・山田郷・帆足郷・飯田郷史料、別府大学附属図書館、1994年5月）

渡辺澄夫「豊後国における皇室御領荘園の研究」（『〔大分県立先哲史料館〕史料館研究紀要』第1号、1996年3月）

飯沼賢司「玖珠の荘園」（玖珠町史編纂委員会編『玖珠町史』上巻 自然～近世、玖珠町教育委員会、2001年3月）

（39）肥前

遠城悦子「室町院領河内国石川庄・肥前国三重屋庄に関する一考察」（『ソーシャル・リサーチ』第33号、2008年5月）

（40）肥後

杉本尚雄「阿蘇社と阿蘇大宮司」（同氏『中世の神社と社領—阿蘇社の研究—』（吉川弘文館、1959年9月）

松本雅明「荘園と社寺—肥後国益城郡豊田荘について—」（『社会と伝承』第6巻、1962年12月）

小島鉦作「肥後阿蘇社の荘園的領知の成立と展開」（立正大学史学会創立五十周年記念事業実行委員会編『宗教社会史研究』雄山閣

出版、1977年10月）→「肥後阿蘇神社の荘園的領知の成立と展開」（『小島鉦作著作集』第3巻 神社の社会経済史的研究、吉川弘文館、1987年2月）

中村一紀「肥後国山本荘の鎌倉室町期における本家・領家・地頭職について」（『熊本史学』第59号、1983年6月）

川副義敦「肥後国阿蘇社の支配と権能」（『熊本史学』第62・63合併号、1985年11月）

山口隼正「肥後国豊田荘・日向国佐土原郷のことども一石清水八幡宮旧記抄所収文書一」（『鹿大史学』第33号、1986年1月）

工藤敬一「肥後中央部の荘園公領制おぼえがき」（『〔熊本大学〕文学部論叢』第29号、1989年3月→同氏『荘園公領制の成立と内乱』思文閣史学叢書、思文閣出版、1992年11月）

工藤敬一「平安・鎌倉期の阿蘇文書」（熊本大学・熊本県立美術館編『阿蘇家文書修復完成記念 阿蘇の文化遺産』熊本大学・熊本県立美術館、2006年9月）

（41）日向

日高次吉「日向国々富庄について」（『西日本史学』第4号、1950年9月）

五味克夫「日向国の荘園・公領」（宮崎県編『宮崎県史』通史編 中世、宮崎県、1998年3月）

M. 側 近

I. 廷臣

（1）吉田定房

中村直勝「吉田定房（上）（下）」（『歴史と地理』第15巻第1号・第16巻第1号、1925年1月・7月）→「吉田定房」（同氏『南朝の研究』星野書店、1927年6月→『中村直勝著作集』第3巻 南朝の研究、淡交社、1978年4月）

平田俊春「吉田定房について」（『史学雑誌』第49編第5号、1938年5月）→「吉田定房（一）」（同氏『吉野時代の研究』山一書

- 房、1943年3月)
- 松本周二・村田正志『吉田定房事蹟』(松成勇一、1940年7月→『村田正志著作集』第3巻 続々南北朝史論、思文閣出版、1983年12月)
- 平田俊春「吉田定房と後醍醐天皇」(『建武』第8巻第2号、1943年2月→同氏『南朝史論考』国学研究叢書第18編、錦正社、1994年3月)
- 平田俊春「吉田定房(二)」(同氏『吉野時代の研究』山一書房、1943年3月)
- 岩橋小弥太「吉口伝」(続群書類従完成会編『群書解題』第6巻、続群書類従完成会、1960年5月→改訂版、『群書解題』第5巻、続群書類従完成会、1986年6月)
- 小野田光雄「吉田定房卿古事記所望の頃—古事記受容史覚書—」(『古事記年報』第15号、1972年6月→同氏『古事記釈日本紀風土記ノ文献学的研究』続群書類従完成会、1996年2月)
- 百瀬今朝雄「管領頭に関する一考察—足利義教政権解明へのアプローチ—」(『日本歴史』第423号、1983年8月→同氏『弘安書札礼の研究—中世公家社会における家格の桎梏—』東京大学出版会、2000年5月)
- 村井章介「吉田定房奏状はいつ書かれたか」(『日本歴史』第587号、1997年4月→同氏『中世の国家と在地社会』歴史科学叢書、校倉書房、2005年12月)
- 名古屋大学大学院中世社会史ゼミ「西尾市岩瀬文庫所蔵『大理秘記』」(『年報中世史研究』第23号～第24号、1998年5月～1999年5月)
- 佐伯有清「新撰姓氏録概論」(同氏『新撰姓氏録の研究』拾遺篇、吉川弘文館、2001年8月)
- 吉江 崇「中世吉田地域の景観復原」(『京都大学構内遺跡調査研究年報』2001年度、2006年3月)
- 和田幸大「古文書の筆跡の特徴のとらえ方と比較の着眼点について—吉田定房と万里小路宣房の筆跡を中心に—」(『東京大学史料編纂所研究紀要』第18号、2008年3月)

（2）万里小路宣房

- 近藤喜博「万里小路宣房の五部大乘経」（『書品』第17号、1951年6月）
- 飯田久雄「万一記に見える政道論—建武中興理解の一視点—」（『史学研究』第77・78・79合併増大号、1960年10月）
- 西垣晴次「嘉暦三戊辰年九月十日公卿勅使御参宮記」（続群書類従完成会編『群書解題』第1巻下、続群書類従完成会、1963年4月→改訂版、『群書解題』第6巻、続群書類従完成会、1986年7月）
- 小松茂美「一字三礼の写経—万里小路宣房の五部大乘経奥書集成—」（『東京国立博物館研究誌 MUSEUM』第186号、1966年9月→同氏『日本書道説林』下巻、講談社、1973年7月→『小松茂美著作集』第20巻 古写経研究2 三筆三跡、旺文社、1998年1月）
- 佐藤進一「浄蓮華院文書」（『年報中世史研究』創刊号、1976年5月）
- 網野善彦「藤原宣房」（『世界伝記大事典 日本・朝鮮・中国編』4て—ほう、ほるぷ出版、1978年7月）
- 森 茂暁「『万一記』（抄）」「内閣文庫本『万一記』 自文保三年至元応三年」（『国書逸文研究』第6号、1981年2月）
- 森 茂暁「東洋文庫所蔵「浄蓮華院文書」と「宣胤卿記」」（『国書逸文研究』第7号、1981年8月）
- 新田英治「西園寺家所蔵『万一記』」（『学習院大学史料館紀要』第8号、1995年3月→『朝廷儀式と公家の生活—日本史科学の基礎研究—』学習院大学史料館、1998年3月）
- 高橋秀樹「祖先祭祀に見る一門と「家」—勸修寺流藤原氏を例として—」（『日本中世の家と親族』吉川弘文館、1996年7月）
- 坂口太郎「『太平記』考証ノート（一）—聖護院庁ノ法眼玄基・万里小路宣房五部大乘経供養小考—」（『寺社と民衆』第4号、2008年3月）
- 徳仁親王・木村真美子「東山御文庫所蔵「立倚子政記」」（『学習院大学史料館紀要』第15号、2009年3月）

（3）六条有房

- 佐々木孝浩「『とはずがたり』の人麿影供—二条の血統意識と六条有房

の通光影供をめぐって一」（『国語と国文学』第70巻第7号、1993年7月）

小川剛生「六条有房について」（『国語と国文学』第73巻第8号、1996年8月）

蒲原義明「六条有房『文保百首』の紹介—翻刻と校異—」（『人間科学研究』第4号、2007年3月）

（4）中御門経継

橋本初子「別形態の院宣・綸旨—「御奉行所候也」という文書について—」（『史林』第62巻第5号、1979年9月）

（5）丹波忠守

小川剛生「医道と歌道のあいだ—丹波忠守の事蹟を考証し、徒然草第一〇三段の解釈に及ぶ—」（『芸文研究』第100号記念号、2011年6月）

Ⅱ. 女房

高橋善浩「後宇多院宰相典侍について—飛鳥井家の一女流歌人の事蹟—」（『古典論叢』第19号、1987年12月）

松藺 斉「中世女房の基礎的研究—内侍を中心に—」（『愛知学院大学文学部紀要』第34号、2005年3月）

須田亮子「後深草時代の女性」（『女子大國文』第137号、2005年6月）

Ⅲ. 僧侶

（1）禅助

藤平 泉「土御門家の歌人たち」（『日本大学人文科学研究所研究紀要』第37号、1989年3月）

宇都宮啓吾「京都国立博物館蔵『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』の訓点について—真言宗広沢流の訓読を巡って—」（『京都国立博物館学叢』第28号、2006年5月）

（2）道順

藤井雅子「大覚寺統と密教—後宇多法皇と道順—」（『史艸』第38号、

1997年11月)

中村本然「『常盤井殿記録』にみる真言教学について—特に道順の教説を中心として—」（『印度学仏教学研究』第60巻第1号、2011年12月）

（3）我宝

櫛田良洪「中世東寺教学の伝統」（『大正大学研究紀要 文学部・仏教学部』第53号、1968年3月）→「中世東寺教学の展開」（同氏『続真言密教成立過程の研究』山喜房佛書林、1979年3月）

永村 眞「「印信」試論—主に三宝院流印信を素材として—」（『三浦古文化』第55号、1994年12月→同氏『中世寺院史料論』吉川弘文館、2000年12月）

藤井雅子「後宇多法皇の秘法相承—「悉曇大事」の相承—」（『史櫻』第2号、1996年7月）

横山和弘「後宇多王権による空海「聖跡」の興隆—檜尾平等心王院我宝と土佐国室戸金剛頂寺・最御崎寺をめぐる—」（『〔京都文化博物館研究紀要〕朱雀』第19集、2007年3月）

（4）道我

片山 勝「国史学会記事 兼好と道我」（『国史学』第8号、1931年10月）

西田長男「荷田氏所伝の稻荷社縁起（上）（下）」（『神道史研究』第4巻第1号～第2号、1956年1月～3月）

片山 勝「兼好法師雑話」（『日本歴史』第137号、1959年11月→同氏『読史雑考』法学書院、1965年9月）

近藤喜博「稻荷説話の資料」（同氏『古代信仰研究—稻荷信仰論—』角川書店、1963年3月）

林 瑞栄「兼好と道我—二つの贈答歌の「解釈」—」（『文藝研究』第105集、1984年1月）

松原 茂「「正和三年本真言八祖像」考証（上）（下）」（『国華』第91編第12冊～第92編第1冊、1985年12月～1986年1月）→「「正和三年本真言八祖像」考証」（同氏『断面日本絵画史』木耳社、1988年11月）

稲田利徳「兼好と道我の贈答歌—「兼好自撰家集」の一齣—」（『和歌文学研究』第66号、1993年9月→同氏『和歌四天王の研究』笠間叢書329、笠間書院、1999年2月）

（5）栄海

- 鷺尾順敬「慈尊院栄海」（『密教』第5巻第2号、1915年10月）
- 島田乾三郎「蓮契上人考—附 栄海僧正略年表—」（『仏教史学』第8巻第3号、1960年5月）
- 佐藤愛弓「栄海の著作活動としての『真言伝』」（『説話文学研究』第32号、1997年6月）
- 佐藤愛弓「慈尊院栄海の活動と言説—『真言伝』の編纂まで—」（『勸修寺論輯』第2号、2005年3月）
- 佐藤愛弓「慈尊院栄海における宗教と文学」（『中世文学』第51号、2006年6月）
- 土屋貴裕「『釈教三十六歌仙絵』と真言僧栄海」（『東海仏教』第52輯、2007年3月）
- 佐藤愛弓「慈尊院栄海の活動と言説—『真言伝』の編纂から入滅まで—」（『勸修寺論輯』第3・4合併号、2007年7月）
- 佐藤愛弓「『釈教三十六人歌仙図』の編纂について—栄海における和歌と国家—」（『仏教文学』第32号、2008年3月）
- 本多潤子「栄海の聖徳太子観について—貞和二年題未詳講式を中心に—」（『論究日本文学』第89号、2008年12月）

N. 陵 墓

- 宮地直一「中古以降の陵墓（桓武天皇以後）」（日本歴史地理学会編『皇陵』日本歴史地理学会、1914年3月）
- 上野竹次郎「後宇多院天皇、蓮華峯寺陵」（同氏編『山陵』下、山陵崇敬会、1925年7月→合本新訂版、名著出版、1989年2月）
- 陵墓調査室（井上喜久男）「後宇多天皇陵整備区域の調査」（『書陵部紀要』第30号、1979年2月→宮内庁書陵部陵墓課編『書陵部紀要所収 陵墓関係論文集』続、学生社、1968年10月）

陵墓調査室（福尾政彦・有馬伸）「蓮華峯寺陵の墳丘外形調査」（『書陵部紀要』第55号、2004年3月）

前号の訂正と補遺

前号掲載の「後宇多院関係史料・研究文献目録稿」（上）に誤記と遺漏がありました。また、研究文献の発見によって、項目名や凡例に改訂の要が生じました。以下のように御訂正ください。この他に誤脱や、収録すべき文献を発見された場合は、ご批正ならびにご教示をいただけますと幸いです。

【項目名の訂正】

- ・ E. 仏教 → 仏教・神道
- ・ B-III 諱「世仁」と禁忌詞 → 諱「世仁」

【凡例の訂正】

- ・ H. 芸能には、後宇多の音楽・蹴鞠に関する研究を挙げた。
→ H. 芸能には、後宇多の音楽・蹴鞠に関する研究、また絵画に関する関心について触れた研究を挙げた。
- ・ K. 家族には、後宇多の父親である亀山天皇、后妃の遊義門院・永嘉門院、皇子女の後二条天皇・後醍醐天皇・達智門院に関する研究などを挙げた。
→ K. 家族には、後宇多の父親である亀山天皇、母親の京極院、后妃の遊義門院・永嘉門院・万秋門院、皇子女の後二条天皇・後醍醐天皇・達智門院・崇明門院に関する研究などを挙げた。

【誤記の訂正】（一行は下より数えた行数）

- ・ 97 頁 5 行 後宇多院の事蹟 → 後宇多の事蹟
- ・ 110 頁 -8 行 富田正弘 → 富田正弘
- ・ 120 頁 3 行 黑板勝実 → 黑板勝美
- ・ 122 頁 -1 行 2011 年 10 月 → 2011 年 11 月

【書誌の訂正】

- ・ 114 頁 7 行以下 細川亀市論文を次のように訂正。
細川亀市「中世における朝廷の民事裁判所—記録所について—」
（『法曹会雑誌』第 14 巻第 1 号、1936 年 1 月）→「中世公家法における民事裁判所（一）—記録所に就いて—」（同氏『日本固有法の展開』巖松堂書店、1939 年 4 月）
細川亀市「中世公家法における民事訴訟法—院庁の文殿に就て—」
（『法曹会雑誌』第 15 巻第 4 号、1937 年 4 月）→「中世公家法における民事裁判所（二）—院庁の文殿に就て—」（同氏『日本固有法の展開』巖松堂書店、1939 年 4 月）
- ・ 128 頁 12 行以下 村田正志論文を次のように訂正。
村田正志「建武中興と神社制度」（『出雲』第 4 号、1939 年 12 月）
→「神社制度」（同氏『南北朝史論』中央公論社、1949 年 10 月→『村田正志著作集』第 1 巻 南北朝史論、思文閣出版、1983 年 3 月）

【補 遺】

- ・ A-I 史料集
清水正健編『皇族世表』（吉川弘文館、2011 年 11 月）
清水正健編『皇族考證』第 4 巻「亀山皇胤」「後宇多皇胤」（吉川弘文館、2011 年 11 月）
- ・ B-III 諱「世仁」
巖本正方「天皇の御名の事」（『如蘭社話』巻 26、1891 年 11 月）
- ・ D-II. 鎌倉後期の治天の君・政治過程・公武関係
橋本初子「王朝文書の変質」（佐藤進一責任編集『週刊朝日百科 日本の歴史別冊 歴史の読み方』第 5 巻 文献史料を読む・中世、朝日新聞社、1989 年 1 月→合冊本、朝日新聞社、1992 年 1 月／青木和夫ほか編『文献史料を読む—古代から近代—』朝日新聞社、2000 年 10 月）
松島周一「鎌倉末期の熱田大宮司職をめぐって」（『愛知県史研究』第 16 号、2012 年 3 月）
- ・ E-VII. 後宇多と真言諸寺院

（3）東寺

新見康子「東寺文書御宸翰之部の伝来と現状」（『博物館学年報』
第39号、2008年3月）

（4）高野山

上横手雅敬「古代・中世の「橋本」とその史料 II 高野参詣」（橋
本市史編さん委員会編『橋本市史』橋本市、2012年3月）

・ E-X. 後宇多と禪

井上義洲「一山国師の徳化と後宇多天皇の擾掟」（同氏編『南禅寺
とその師檀塔』南禅寺、1927年11月）

・ E-X I. 後宇多と律

大塚紀弘「鎌倉極楽寺流律家の西国展開—播磨国報恩寺を中心に—」
（『地方史研究』第357号、2012年6月）

・ F-IV. 二条派の歌人

スピアーズ スコット「惟宗光吉とその生涯—『惟宗光吉朝臣集』
を通して—」（『和歌文学研究』第104号、2012年6月）

〈キーワード〉後宇多院、鎌倉時代、後醍醐天皇